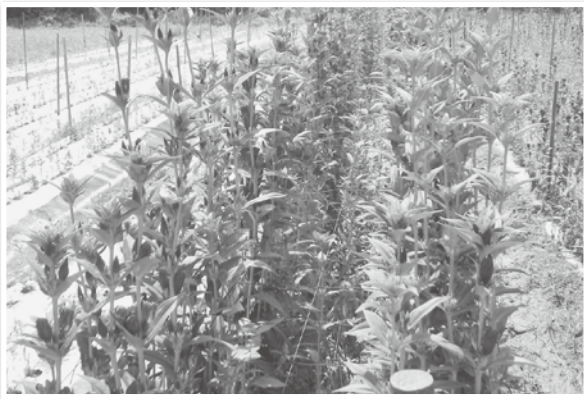


くらしき

普及指導センターだより 2012
“人づくり、産地づくり、ブランドづくり”



岡山県備中県民局農林水産事業部
倉敷農業普及指導センター

目 次

I 特集

ももの高品質安定生産の推進と産地を支える担い手の育成…………… 1

II トピックス

新規就農者の確保…………… 3

認定農業者の育成…………… 3

農林水産部長と倉敷地方農業士との懇談会…………… 4

「全国生活研究グループ連絡協議会」全国会議岡山大会開催される …… 4

集落営農組織の法人化へ気運高まる！…………… 5

レンゲを利用した稲づくり…………… 5

水稲育苗箱全量施肥資材「苗箱まかせ」による省力化実証…………… 6

水稲の高温障害対策…………… 6

ぶどう次世代品種の導入と高品質安定生産の推進…………… 7

連島ごぼうの周年出荷を目指して…………… 7

地産地消への取組を通じた野菜安定生産の推進…………… 8

搾乳牛舎の暑熱対策…………… 8

低標高地でのりんどう産地育成の取組…………… 9

ブルーレースフラワー岡山B L F 1号の試験栽培…………… 9

各種表彰事業受賞者…………… 10

表紙写真の説明

左上 初出荷された「おかやま夢りんどう早生2号」

左下 「紫苑」推進研修会の様子

右上 ももの新規就農者へ指導

右下 ごぼう出荷物の検討

ももの高品質安定生産の推進と産地を支える担い手の育成

活動対象名：J A 岡山西玉島北園芸協会（地域：倉敷市）
 浅原園芸組合（地域：倉敷市）
 吉備路もも出荷組合（地域：倉敷市、総社市）

【現状と課題】

倉敷地域のもも栽培は倉敷市、総社市で面積、生産額ともに県全体の約3分の1を占めており、主要農産物となっています。しかし、近年、生産者の高齢化や担い手不足により生産力が低下するとともに、天候不順などでももの品質や生産量が不安定になっています。そこで、倉敷地域の活力あるもも産地の育成を目指して、次のような活動を展開しています。

【普及活動の内容と成果】

1 次世代フルーツの導入推進

(1) 「おかやま夢白桃」の作付け推進

各地域での講習会や初心者教室で、「おかやま夢白桃」の品種特性や栽培管理方法等の情報提供を行い、植え付けを推進しました。

(2) 「おかやま夢白桃」の栽培技術向上

各地域に設置した展示ほを活用し、「おかやま夢白桃」の特性に合った栽培管理の講習会を行い、栽培技術の向上を図りました。

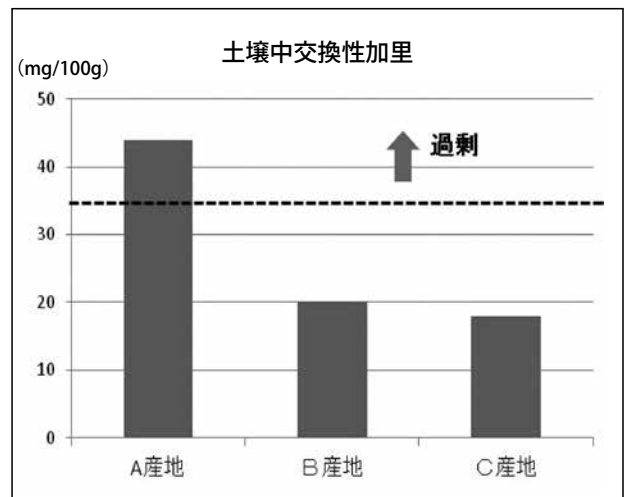
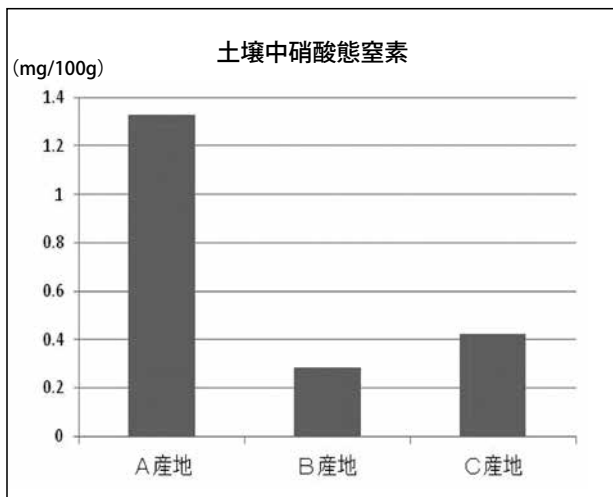


「おかやま夢白桃」の栽培管理指導

2 産地ブランド力の強化

(1) 高品質安定化の推進

倉敷地域のもも産地から園地を12か所選び、各生育ステージごとに樹相診断と土壌調査を行いました。その結果、土壌中の窒素やカリウムが多い産地がみられました。収穫前に窒素やカリウムが多いと糖度の低下が生じることがあるため、養分過剰のみられた産地には施肥改善を指導しています。



倉敷3産地の土壌調査結果（8月上旬採土）

3 GAP（農業生産工程管理）の推進

産地ブランド力強化のため、吉備路もも出荷組合では平成22年からGAPに取り組んでいます。

今年度は全戸にチェックシートを配布し、日頃の栽培管理や環境保全・農作業安全への取組が適正に行われているか点検を行い、農産物や労働の安全性の向上を図りました。普及指導センターは今後ともGAPの実施について啓発活動や助言を行っていきます。



GAPのチェックシート記入の様子

4 マーケティング活動支援

浅原園芸組合のもものPRと消費者交流のため、岡山学院大学の学生を対象に作業体験（袋かけ、試食会、収穫）を開催したり、地元幼稚園の園児との交流会を行いました。

また、ももの生育状況や出荷予測を記載した「倉敷浅原もも便り」を作成し、市場を通じて仲卸や販売店に配布しています。これらの活動を通じて、顔の見える産地づくり、地元のももへの愛着心の醸成をすすめています。



地元幼稚園との交流会（H24.7.4）

5 海外輸出に向けた活動支援

今年度、台湾へ初めて総社もも生産組合（7戸、8ha）から247ケース（約500kg）を輸出しました。普及指導センターは関係機関・団体と連携し、病虫害防除の徹底や台湾植物検疫局の査察対応等の支援を行いました。



台湾からの査察対応（H24.8.9）

6 担い手の育成

新規栽培者の確保、育成のため、JAと連携した「農業塾」を支援しています。「農業塾」では、栽培技術の基礎の習得を目標に、園地で講義と実習を行っています。

また、関係機関等と連携し、県の研修制度を活用して、ももでの農業実務研修生（倉敷市：2人、総社市：3人）を積極的に受け入れ、就農準備に向けて支援しています。

【今後に向けて】

普及指導センターでは今後とも、関係機関や生産組織と連携して、ももの高品質安定生産と産地を支える担い手の育成に取り組んでいきます。



ももの新規就農者へ指導

II トピックス

新規就農者の確保

活動対象名：新規就農希望者、新規就農者（地域：全域）

【現状と課題】

倉敷地域の次世代農業を担う人材の確保に向けて、関係機関と密接に連携を取りながら、新規参入者やUターン者、定年帰農者等多様な新規就農者の確保に努めました。

【普及活動の内容と成果】

県内外の就農相談会への参加や産地説明会の開催などを行い、就農希望者の状況や適性等を踏まえ、関係機関や生産組織と協力しながら、就農準備を支援しています。

この結果、平成24年度は倉敷管内で14名の新規就農者を確保できる見込みです。

【今後に向けて】

各種就農支援制度を活用し、就農希望者に対しきめ細やかな支援に努め、意欲ある優秀な新規就農者の確保に取り組んでいきます。



就農相談会への参加



現地見学会の開催

II トピックス

認定農業者の育成

活動対象名：認定農業者、認定志向農業者（地域：全域）

【現状と課題】

倉敷管内では約500名の生産者が認定農業者として活躍されています。経営改善計画の達成に向けて、効率的かつ安定的な経営の実現を図ることが必要となっています。

【普及活動の内容と成果】

普及指導センターでは、経営講座の開催や経営コンサルティングの実施等により、認定農業者や認定志向農業者の経営改善を支援しています。本年度も既にマーケティングや税務等に関する4回の経営講座を開催し、多くの方が受講されました。今後は簿記に関する講座を開催するほか、法人化を検討されている生産者等を対象に、中小企業診断士を交えて経営コンサルティングを実施する予定です。

【今後に向けて】

今後とも、認定農業者の経営改善計画の達成に向けて経営・技術面から積極的な支援を行っていきます。



法人化研修



税務研修

II トピックス

農林水産部長と倉敷地方農業士との懇談会

活動対象名：倉敷地方農業士会（地域：全域）

平成24年10月22日（月）、総社市清音の清音福祉センターに高橋農林水産部長を迎え倉敷地方農業士12名と「高橋農林水産部長と地方農業士会との懇談会」を岡山県で初めて開催しました。

当日は、倉敷地方農業士会副会長である原農業士が倉敷地域で生産された農産物をふんだんに取り入れたおこわ弁当を提供、この解説をしていただき会を始めました。会食後各農業士が持ち寄った農産物や、農産加工品を手にとったり試食した後懇談会に移り、後継者、鳥獣害、農薬、農地の問題やアレキ等の振興等いろいろな意見や提言が活発に行われました。懇談会終了後、倉敷地方農業士会の大熊会長が役員を務める「吉備路オーガニックワーク」の有機栽培ニンジンほ場の見学を行い当日の会を閉じました。



懇談会会場



現地見学会

II トピックス

「全国生活研究グループ連絡協議会」全国会議岡山大開催される

活動対象名：倉敷地方農村生活交流グループ協議会（地域：全域）

平成24年7月26日（木）～27日（金）、生活交流グループの全国組織である「全国生活研究グループ連絡協議会」の全国会議が、岡山県で初めて開催されました。1日目は、食育の講演会や事例発表が行われました。2日目は、県下9コースに分かれての研修会があり、当倉敷地域では、JA岡山西山手直売所や山手中央選果場の見学後、清音福祉センターで地産地消弁当を食べながら交流会を行いました。地産地消弁当は、倉敷らしさを出すため何回も試作検討を行い、キビ、タケノコ、ゴボウ、マスカット等を使った献立に仕上げたもので、当日は大変好評でした。

全国の仲間との交流会では、どこにでもあると思っていた「きび餅」や「はったい粉」等への関心が意外に高く、地域の資源を見直すよい機会となりました。



交流会の様子



自信作の地産地消弁当

II トピックス

集落営農組織の法人化へ気運高まる！

活動対象名：農事組合法人原営農組合（地域：総社市）

【現状と課題】

倉敷地域とりわけ総社市では、集落営農は水田農業を担う重要な担い手として位置づけられ、普及指導センターでは水田農業を継続的に担っていくことのできる集落営農組織の育成やその法人化に向けた活動を支援しています。平成23年には2組織が法人化し、法人化への気運が高まっています。

【普及活動の内容と成果】

任意組織の法人化についてはJA、市等と連携し、事業目論見書や定款、収支計画書の作成支援や任意組織から法人への資産譲渡の検討、設立総会の開催等を支援しています。平成24年9月3日には市内で三番目となる農事組合法人原営農組合が設立登記されました。

【今後に向けて】

今後も法人化した組織の事例報告等を通じて組織化、法人化に向けた意識啓発を行い、水田農業の担い手となる新たな集落営農組織の育成や法人化への活動を支援します。

また、新たに法人化した組織が安定的な運営ができるよう経営・技術面で支援するとともに、法人同士の連携についても支援していきたいと考えています。



原営農組合設立総会の様子（H24.7.20）

II トピックス

レンゲを利用した稲づくり

活動対象名：水稲生産者（地域：全域）

【現状と課題】

レンゲを利用した水稲栽培は普及しつつありますが、レンゲのすき込みは満開前後が一般的で、すき込み時期はあまり考慮されていません。そこでレンゲを利用した施肥技術（品種：ヒノヒカリ）について、特にレンゲのすき込み後の畑期間の長短によるレンゲの肥効特性について検証しました。

【普及活動の内容と成果】

レンゲのすき込み時期を移植前30日（5月18日）と15日（6月3日）の2区設定し調査しました。レンゲすき込み区は基肥を施用してなくても幼穂形成期の葉色が適正であったため、今回は追肥もしませんでした。

その結果、移植前15日にレンゲをすき込んだ区が出穂後の葉色が落ちにくく、収量が良くなりました。また、すき込み時のロータリーへの巻き付き程度に大きな差はありませんでした。

表 生育・収量の調査結果（6月18日移植）

試験区	窒素施肥量 (kg/10a)	稈長 (cm)	収量 (kg/10a)	食味値
5/18すき込み	0	80.1	531	88
6/3すき込み	0	79.6	546	90
基肥一発肥料	6.0	79.1	509	89



結実したレンゲ（H24.6.3）

【今後に向けて】

移植する2週間程度前にすき込むと、肥効期間が長くなり肥効も向上するので、レンゲ利用農家にすき込み時期の再検討を提案したいと思います。

また、この時期レンゲは結実しており、すき込みによって水稲収穫後に落ち生えが確認されたので、今後は翌春にどの程度繁茂するか調査を続けます。

II トピックス

水稲育苗箱全量施肥資材「苗箱まかせ」による省力化実証

活動対象名：集落営農組織（地域：総社市）

【現状と課題】

ほ場面積や筆数が多い集落営農組織では、作業効率が経営上重要です。省力的な基肥一発型肥料と比較し、さらに効率化が図れないか育苗箱全量施肥資材「苗箱まかせ」で実証試験を行いました。

【普及活動の内容と成果】

試験区は「苗箱まかせ」を育苗箱内に入れて播種・育苗し、慣行区は通常の培土で育苗・一発型肥料の側条施肥を行い、両区を比較した結果、収量・品質は試験区が上回りました（表1）。播種作業と同時に本田で必要な施肥も済ませるので、本田での施肥作業が不要になり、省力化できました。

【今後に向けて】

「苗箱まかせ」が入る分、箱内の培土が減って苗の根がらみが若干弱まることや、初期費用が必要（表2）なことなどを導入希望者・組織に情報提供していきます。



「苗箱まかせ」を使った播種作業

表1 結果概要

	移植期	出穂期	成熟期	収量	等級
試験区	6月10日	8月23日	10月5日	494	1等
慣行区	6月10日	8月23日	10月5日	449	2等

※品種はヒノヒカリ。施肥以外は共通の管理

※両区とも5月22日播種、稚苗機械移植、15株/㎡

※収量は1.85mmのふるい使用、kg/10a

表2 「苗箱まかせ」に関する初期費用

初期費用の目安（メーカー調べ）資材費含まない
ホッパーのみ：約11万円
スタンド+ホッパー：約13万円

II トピックス

水稲の高温障害対策

活動対象名：水稲生産者（地域：全域）

【現状と課題】

「ヒノヒカリ」は倉敷地域の作付面積の約3割を占めていますが、平成22年に高温障害による大幅な品質低下があったことから、気象変動に対応した安定生産技術が求められています。

【普及活動の内容と成果】

本年は梅雨明け後が高温で、1か月予報でも高温の予報が続いたことから、品質低下が心配されました。そのため、普及指導センターでは農林水産総合センター、JA等と連携して高温対策会議を開催し、緊急情報の提供などで肥切れを防ぐための追肥やかけ流しかん水など発生軽減のための啓発を行いました。登熟期の高夜温で白未熟粒の発生はありましたが、概ね1、2等でした。

【今後に向けて】

引き続き、高温障害対策としての遅植えや追肥など水稲の安定生産技術の普及を進めていきます。



高温対策会議の開催（H24.8.10）

H24年産ヒノヒカリの高温対策について

本年7月の気候は、高温の影響でヒノヒカリの品質低下の懸念が広がった。平成22年の気候の経過と比較しています。また気象庁発表の1ヶ月予報（8/11～8/14）によると、前期の前半はかなり気温が高くなる可能性があります。

※1ヶ月目のヒノヒカリ苗の調査では、葉色の落ちたは確認がされました。

項目	本年	22年	23年	24年
最高気温(℃)	34.8	34.2	34.2	34.2
最低気温(℃)	21.2	21.2	21.2	21.2
日照時間(時間)	177.3	177.3	177.3	177.3
降水量(mm)	37.0	122.5	15.0	4.5
蒸発量(mm)	178.3	228.0	178.3	178.3
土壌水分(%)	184.3	184.3	184.3	184.3

※22年と23年の気候は、H24.8.8ヒノヒカリ苗の調査結果

※このように注意して、ヒノヒカリの栽培管理をお願いします。

- 肥切れしないようにしましょう**
高温では、基肥・追肥の効果が早く、生育後半に肥切れしやすくなります。葉色が黄緑に転じた、下部の枯れ土が確認された場合は、生育後半に追肥を10a当たり1.5kgの追肥を行い、登熟期の収量不足を防ぎましょう。
【目安は本圃用ランナーで480gです】
- 水を元気に保ちましょう**
高温対策のために、田間かんがいを行います。灌漑性のよい土壌は水はけが速く、穂ばらみ期～登熟期は最低の水の必要量があります。水分を確保できるようにしましょう。ヒノヒカリは登熟期に水不足と白未熟粒の発生が確認しやすいので、出穂前を目安に灌水を行います。
- 出穂前後の防除を徹底しましょう**
暑いものは発生しやすいです。出穂前後の病害の発生を抑制しましょう。

問合せ先
岡山県農業振興総合センター ☎086(822)2404
倉敷農業普及指導センター ☎086(434)7038・7048
倉敷農業普及指導センター ☎086(6)1623・1633

高温対策緊急情報

II トピックス

ぶどう次世代品種の導入と高品質安定生産の推進

活動対象名：管内ぶどう生産組合および生産者（地域：全域）

【現状と課題】

岡山県では、「オーロラブラック」、「シャインマスカット」、「紫苑」を消費者ニーズが高く、収益性が高い次世代フルーツと位置づけ、生産振興をしています。

【普及活動の内容と成果】

9月12日、総社市の「シャインマスカット」栽培展示ほ場で、関係機関と連携して生産者等38人を集めた栽培研修会および試食会を行いました。また、10月24日には総社市で、生産者等110人を集めた紫苑の栽培研修会および試食会を行いました。

【今後に向けて】

研修会や講習会で、次世代フルーツの栽培推進および技術向上を支援していきます。



「シャインマスカット」展示ほ場での研修会の様子



「紫苑」推進研修会の様子

II トピックス

連島ごぼうの周年出荷を目指して

活動対象名：JA倉敷かさや東部出荷組合（地域：倉敷市）

【現状と課題】

倉敷市連島では現在、「秋まきごぼう（収穫4月下旬～7月中旬）」、「春まきごぼう（収穫7月中旬～10月下旬）」、「新旬ごぼう（収穫1月下旬～3月上旬）」の年3作型で栽培を行っていますが、11～12月と3～4月の期間に安定的な収穫・出荷ができていませんでした。

【普及活動の内容と成果】

JA倉敷かさや東部出荷組合青年部（9名）、JA倉敷かさや倉敷営農センターと協力し、11～12月に出荷する「短根ごぼう」の新作型の栽培実証を行い、ほぼ技術確立ができました。

【今後に向けて】

1年中新鮮な連島ごぼうを出荷できるよう、3～4月出荷の作型確立にも取り組んでいきます。



栽培試験ほ場の準備



生産物の検討

II トピックス

地産地消への取組を通じた野菜安定生産の推進

活動対象名：そうじゃ「地・食べ」委員会生産者部会（地域：総社市）

【現状と課題】

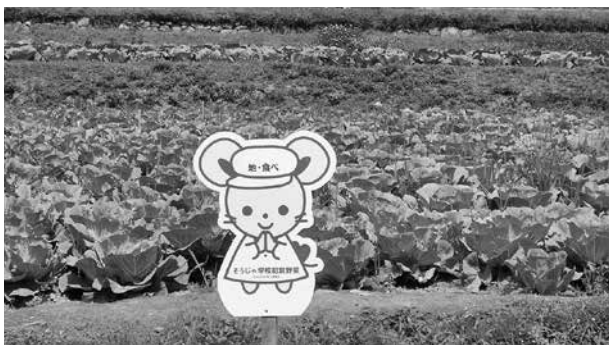
総社市では、平成22年度に策定された「総社市農業ビジョン」や「地産地消推進条例」に基づき総社の地産地消を推進するそうじゃ「地・食べ」委員会を立ち上げ、学校給食の市内産食材利用率35%を目標に取り組んでいます。

【普及活動の内容と成果】

市内産農産物の安定供給確立のための組織強化、作付計画作成支援や栽培技術指導を行いました。

【今後に向けて】

市内産の農産物が学校給食等により安定的に供給されるよう、生産量の増加が図れるよう支援していきます。



「地食べ」の生産ほ場（キャベツ）



そうじゃ「地食べ」委員会生産者部会会議

II トピックス

搾乳牛舎の暑熱対策

活動対象名：びなん酪農組合（地域：全域）

【現状と課題】

びなん酪農組合では、夏期の暑さによって牛が体力を消耗し、乳量や乳質が低下することを防止するため、さまざまな牛舎の暑熱対策が取られています。

【普及活動の内容と成果】

備南地区酪農経営支援チームの指導のもと、平成24年度は屋根へのドロマイト石灰乳の塗布6戸、「今風」扇風機の設置2戸の取組がありました。

【今後に向けて】

このほかにも、屋根への散水や扇風機の風量・風向調整等快適な牛舎環境を整えることにより、牛の体調管理を徹底して、より安心・安全でおいしい牛乳の生産に向け、積極的に新技術の導入に努めています。



ドロマイト石灰乳塗布



「今風」扇風機

II トピックス

低標高地でのりんどう産地育成の取組

活動対象名：総社リンドウ生産出荷組合（地域：総社市）

【現状と課題】

平成20年に総社市宇山でりんどうの栽培が始まり、平成24年1月には総社リンドウ生産出荷組合（7戸、11a）が設立されました。しかし、ほ場が広範囲に点在し、また、標高20～40m程度の低標高のほ場もあるため、管理技術習得と低標高地での栽培技術確立が課題となりました。

【普及活動の内容と成果】

普及指導センターは、JAと連携して4～11月に6回の講習会等を開催し、栽培1年目の管理の徹底を図りました。8～9月の乾燥期に一部で株枯れが発生しましたが、遮光の励行等により低標高ほ場でも株が定着し、花を確認することができました。

【今後に向けて】

来年度は新たに2戸が作付を予定し、増反分を含め作付面積は倍増する見込みです。市場出荷は平成24年度1戸ですが、来年度は2戸以上の出荷が期待されます。



宇山地区でのりんどう講習会



初出荷の「おかやま夢りんどう早生2号」

II トピックス

ブルーレースフラワー岡山B L F 1号の試験栽培

活動対象名：倉敷地域施設花き研究グループ（地域：倉敷市、総社市）

【現状と課題】

倉敷市の花き農家が、岡山県が育成したブルーレースフラワー新品種「岡山B L F 1号」の試験栽培を行いました。倉敷での栽培は初めてで、新品種の特徴を知るために、従来品種との比較栽培を行いました。

【普及活動の内容と成果】

普及指導センターは、農業研究所と連携して栽培方法等の指導を行いました。

平成24年2月下旬に定植、夜温10℃の加温と電照栽培を行い、5月中旬～下旬に開花しました。試作農家からは、従来種よりも開花や草姿の揃いがよく、枝が横張りしないために収穫しやすいとの評価をいただきました。

【今後に向けて】

岡山県が品種登録申請を行ったので、試作農家は来年度の試作も希望しており、今後は収益性を考慮した栽培方法について検討を行う予定です。



左：新品種 右：従来種（H24.5.21）



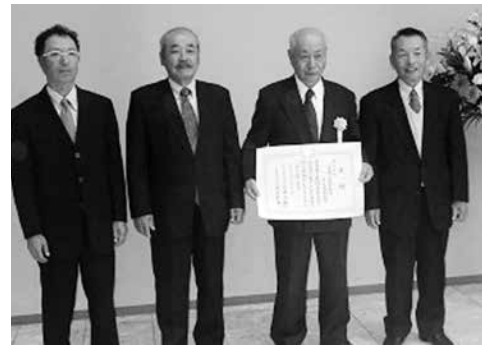
岡山B L F 1号の花（拡大画像）

各種表彰事業受賞者

☆第52回岡山県農林漁業近代化表彰

(農林水産大臣賞、岡山県知事・山陽新聞社社長連名賞)
J A岡山西吉備路もも出荷組合 (組合長：劔持 将己)

- ◆周辺5組織が合併して平成19年に設立。高い技術力により高品質・高単価で他産地を牽引する県内有数のもも出荷組合。平成23年度に光センサー選果機が導入され、更なるブランド化が期待される。また、新規参入者を積極的に受け入れ、活気づいている。



組合役員

(左から吉富さん、高谷さん、劔持さん、阿部さん)

☆第45回岡山県農林漁業功労者表彰

(岡山県知事表彰：農産部門)

河西 康三 ぶどう 総社市秦



- ◆秦果樹生産出荷組合長として、平成19年度には悲願のピオーネ販売額1億円を達成するなど果樹の生産振興に尽力された。次世代フルーツも先駆的に導入し、地域に応じた栽培技術を確立。新規就農研修生を受け入れ、技術指導を行うなど地域の担い手対策の先頭に立っている。平成22年から岡山県農業士。

☆第45回岡山県農林漁業功労者表彰

(岡山県知事表彰：農産部門)

野口 了 施設なす 総社市福井

- ◆平成2年農協を退職して促成なす栽培を開始。平成13年から福井新田茄子生産組合長。養液土耕装置や細霧システム、I P M (天敵) 等の先進的技術を導入し、組合員の範となっている。平成13年から19年まで岡山県農業士を務め、次世代を担う後進の育成に尽力された。



☆第45回岡山県農林漁業功労者表彰

(岡山県農林水産部長表彰：土地改良部門)

竹田 祝郎 総社市影



- ◆総社市土木担当員や総社市農業委員などを歴任。平成12年から県営ほ場整備事業原地区推進協議会長として換地配分の調整に奔走するなど農業農村基盤の整備に貢献。多角的な集落営農に取り組む原営農組合設立の原動力となった。

☆第5回岡山県農林漁業者奨励賞表彰

(岡山県知事表彰)

平本 純大 ぶどう 倉敷市船穂町船穂

- ◆平成10年にアレキの専業農家の後継者として就農。船穂町農業後継者クラブ会長、地方協会長を歴任するとともに農業実務研修生を受け入れ、新規参入者の育成にも尽力。平成23年には自家経営を法人化して代表取締役就任し、地域のモデルとなっている。



受賞者の皆さん、おめでとうございます。

農薬使用にあたっては、次のことを守りましょう。

- ・ 農薬使用基準を守り、安全に使用しましょう。
- ・ 農薬使用を記録し、大切に保管しましょう。
- ・ 農薬使用前には、周りの栽培者との連絡・相談を密にしましょう。
- ・ 農薬使用にあたっては、飛散防止対策を行いましょ。

岡山県備中県民局農林水産事業部
倉敷農業普及指導センター

〒710-8530 岡山県倉敷市羽島1083番地

TEL 086-434-7047・7048・7049 (直通)

FAX 086-421-8253

E-mail : kura-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ホームページアドレス

<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/95/>